根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/10/20 実施)～

参加者: 7 名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

今回目立ったのは、花盛りを迎えたミゾソバの群生です。あちこちにありますが、花弁の上部が赤紫色になってる花ばかりでなく、殆んど白だけの花が群生してる場所もあって、なぜだろうと思います。

また、草むらの所どころで薄紫色のカントウヨメナがさいていて、思わず目を引きつけられます。

オギの銀色の穂が風になびいて、秋の景色になってました。

白色系のミゾソバ

ヌマガヤツリ（2013 年 9 月撮影）

気になるのは、ヌマガヤツリが見つからないことです。ここのところ少なくなってはいましたが、昨年まではマツカサススキに少し遅れて花穂を出してたのが今年は見当たりません。生えてそうな所をタイミング悪く刈り込んでしまったからかもしれないので、来年に期待します。

中央木道に直交する通路際の木肌が白樫類と思われる木にワラジムシのようなものを食している 2 匹のヨコヅナサシガメを相澤さんが示してくれた。地上 2mくらいの高さである。彼が写真を拡大してくれて初めてその実態を理解した訳だが対外消化・3 令幼虫等の専門用語も同時に紹介してくれた。知見が乏しい素人観察者では偶然の邂逅以外ほとんど不可能な観察と思われるが、事前に新発見をする覚悟とその為の努力をしないこれまでのマンネリ観察を反省した次第である。上の広場で例のヨコズナサシガメがジョロウグモの巣にかかり哀れな姿を呈しているのを、同日に観察されたのは天の采配の妙を見る思いであった。

ワラジムシのようなものを食す
ヨコヅナサシガメ

雨樋で水浴びをするメジロとエナガ

上段の広場でなんとなく時間をつぶしている間に、ヤマガラ・メジロ・シジュウカラ・カワラヒワ等が近接した民家の雨樋に混在して屯し夫々思い思いに？水浴びする様が突然現出した。彼らに欠かせない生活上の一断面が、いきなり眼前で展開されたことに感動を覚えた次第だった。

観察会の最後に、エナガとメジロの雨どいでの水浴びが見られたことは、ラッキーでした。丸く膨らんだ姿は可愛いかったけど野生のたくましさも感じました。

キツネノマゴ（2013 年 9 月撮影）

キツネノマゴを見つけた。葉がキツネを思わせるとのこと。いい加減な代物だが私の過去の記録では初出の様で、少し気になるので、この感想を物するに当たり「野に咲く花」を見てみた。珍しいものではないようだが、上下唇形の花弁や 2 個の雄しべが上唇につくなどの特徴が記されていた。皆さんの観察は逐一参考書と首っ引きであるのに、私は面倒を厭うので折角のチャンスを失しているようだ。反省だが改まるかどうか疑問。

台風の影響か、アシなどが横になっている。山側にあるコナラ、今までもかなり横に傾いていたが、今回その傾斜がきつくなっているようだ。いつまでこの姿勢がもつのだろうか。少々危うい。

コブナグサ、ヌカキビの穂は見られたが、風にそよぐ秋の風情はあまり感じられない。これも台風のせいかな？

カントウヨメナ、ミゾソバ、イヌタデなど秋の花々は鮮やか、今は盛り。

ヤマガラ

ジュロウグモの網があちこちに張られ、獲物を狙っている。帰宅後ズボンのすそにも蜘蛛の巣がまとわりついていた。草のなかにもナガコガネグモなどが潜んでいたらしい。クモも活躍する秋ですね。

今回鳥が見えないねと話していたら、広場でヤマガラが現れ、続いて群れがやってきた。メジロ、エナガ、シジュウカラが傍の家のトヨに並んで水浴びをしている。時々水しぶきがあがり、群れは広場の木との間を行ったり来たりしていた。心なごむ景色だった。

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/11/16 実施)～

参加者: 5 名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

観察会が始まってすぐに、カラスザンショウの高い枝先に十数羽のオナガの群れがやって来て、急に賑やかになりました。実がもう熟しているようです。オナガは、この辺りではよく見かける鳥ですが「名古屋にはいないんだよ。西日本にはいないんだよ。」と言われたときは、信じがたかったです。姿は美しいけど声が悪いだとか、うるさいとか思ってたけど結構貴重な鳥なんでしょうか？

オナガ

アカバナの実

アカバナ。夏に咲いている花はうす紫の可憐な花で、公園内で見かけた。種子は 4 本の棒状の葉の中に羽毛を持ってあり、これが開いて風に舞い飛び散るようだ。

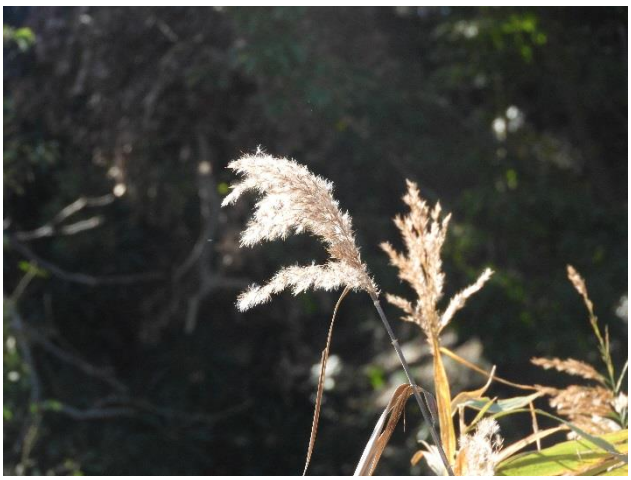
田近くの枝が地面に触れそうなまでに傾いたコナラに交尾中の体の、ヘリが赤味がかったカメムシ2組を見つけた。図鑑を見ると、アオクチブトカメムシ*という種に似ていた。図鑑を見るとカメムシも五万と種類がある。カメムシが1種では味気ないがこの仲間の多さは昆虫の愛好家には興味の尽きないところかもしれないが、素人観察者には何ゆえのものだろうと思われる。

*ヘラクヌギカメムシかと思われます。

ヘラクヌギカメムシ?

葦。ヨシ、アシどちらでも正規の呼び名のようである。これは正規の名称ではないと思うが、しゃれた呼び名だが「浜萩」と呼ぶところもあるようだ。たとえ話の用語に「難波の葦は伊勢の浜萩」（ナニワノアシハイセノハマハギ）。穂が出ている様子はススキやオギとも似ているが穂の色や穂全体のまとまり具合などで違いが分かるようだ。またススキとオギは穂先の形や、生息場所、茎の色などから見分けがつくようだがよく似ており、一見した見分けは難しい。枯れたススキの穂を「枯尾花」とも言い俳句などにも出てくる。
「幽霊の正体見たり枯尾花」

オギの穂のアップ



ヨシの穂のアップ

オギの穂

ヨシの穂

12 月の湿地の観察会は、、、

12 月 21 日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。
観察会は**基本的に毎月第 3 土曜**に開催です。
お問い合わせは下記メールまでお願いします。
akihitoaizawa@gmail.com（相澤）

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/12/21 実施)～

参加者: 6 名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

赤みの強い黄色のあのかわいいウリは、子供のころの冬の遊びを思い出す。小さい頃（昭和の 30 年ころ）の男の子はポケットには小刀・肥後守（ひごのかみ）を常に入れていた。学校に行くときも同様で、鉛筆削りにも使っていた。女の子も筆箱に入れていたような気がする。楽しい遊びは肥後守を使い、小鳥をとらえる罠を作ることであった。この罠には小鳥を呼び寄せるための餌として、目立つ赤や黄色の木の実を使った。このカラスウリは餌としては大きく良いもので、アオキ等の実も沢山あり良く使った。非常に楽しい思い出をこのカラスウリが与えてくれた。

カラスウリ（10 月撮影）

枯れたアシの間からアオジらしい声が聞こえる。姿を見せないかなと見回すが、はっきりととらえられない。藪の中からウグイスの地鳴きも聞こえる。木々の間からメジロの声も聞こえた。が、姿はなかなか見られない。今日は寒いから鳥も冬ごもりか？

木の枝に何かの巣を発見、カラスにしては少々小さいかも。山側でビニールハンガーが大量に見つかった。これはカラスのしわざ。

国道側の葉を落とした柿の木の枝にモズのごちそう（ハヤニエ）を見つける。干からびたカエルはアカガエルか？オオカマキリ、チョウセンカマキリの卵も見られた。

モズのはやにえ

鳥の巣

セリ、ヨモギ、カキドオシ、ハコベ、タネツケバナ、タガラシ、ケキツネノボタン。冬枯れのなかでも緑の葉がみられる

あれ？まるで生け花のように花をつけた草が一本。カントウヨメナか。いや、どうもヒメジョオン？らしい。

ビワの木はこの時期花をつけている。観察会終了後、富士川ぞいの木の上にシメ、続いてモズがあらわれた。枯草のなかでアオジが数羽たわむれている。元気がとてもよさそうだ。最後にやっと鳥の姿を確認できてよかった。

生け花のようなヒメジョオン

ビワの花

暗い寒い日で、鳥たちの動きも鈍いのか、あまり出会えませんでした。

いつもの観察路から外れてるので、今まで観察することのなかったノシランを今回注目しました。土塁下の林の中に開園当初から、かなり大きな株であったと思います。海岸の近くの林に多いらしいので、ここにあるのは誰かが植えたのだろうと勝手に思ってました。近くにヤブコウジや、サネカズラもあって、この辺りも観察場所に入れてもいいかもしれません。

1 月の観察会は、、、

1 月 18 日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第 3 土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）